

和田博史（児童教育専攻/講師）

1. 教育の責任

1.1. 担当科目

- 前期：1) 体育（2年次開講小学校免許必修科目）履修者 20名：木曜 3限
2) 発育・発達論（2年次開講選択科目）履修者 76名：火曜 2限
3) 中等教科教育（3年次開講科目）履修者 50名：木曜 2限
4) キャリアプランニング（3年次開講科目）履修者 108名：水曜 3限隔週
5) 授業観察演習（3年次開講科目）履修者 1名：集中
6) 教育学研究法（4年次開講科目）履修者 8名：月曜 3限
7) 教育学研究法 I（3年次開講科目）履修者 6名：火曜日昼休み及び集中
8) 総合ゼミ（2年次開講科目）履修者 7名：水曜 3限隔週
9) 基礎ゼミ（1年次開講科目）履修者：水曜 3限隔週

上述の通り、前期は9コマ授業担当している。私の専門は小学校の体育の授業づくりや中学校及び高等学校の保健体育の授業づくりに関することであり、そのような授業を主に担当している。また、後期も3年生の就職対応を引き続き指導補助することになる。

1.2. 授業以外教育活動の概要

- ・学生支援委員会にて桔梗祭実行委員長及び学生会委員
- ・地域連携推進室
- ・スポーツ推進室：強化指定部対応及び生涯スポーツの振興
- ・女子サッカー部顧問：月・水・金曜日 2時間練習及び試合等の対応
- ・スポーツチャンバラ部顧問

上述の通り、委員会の分掌は3つで、部活動の対応は2つとなっている。今年は、主に桔梗祭の対応とパリオリンピックの対応でスポーツ推進室の業務が多かった。女子サッカー部の対応は金曜日に私が主となって練習計画及び実施し、試合もほとんど支援活動を実施している。

2. 教育の理念

2.1. 研究や教育の理念

私の理念は、(1) 学校現場の保健体育教師のベストサポーターになること、(2)

国際的なスポーツ健康教育学のプロフェッショナルになることである。そのため、学生や子どもにとって、(3) 生涯スポーツにつながること、(4) 保健体育の授業や授業づくりが意義深く実践を通して楽しんでもらえることを大事にしている。また、学生指導だけでなく、現職教員や運動スポーツに携わる人とも連携して地域社会に貢献していきたいと考えている。

3. 教育の方法

以下の通り、私の4つの理念に関する、1) 具体的な教育上の実践、2) 学生との関係構築の工夫や配慮、について担当する授業や委員会の仕事での関連づけを整理した。

	1) 具体的な教育上の実践	2) 学生との関係構築の工夫や配慮
(1) 学校現場の保健体育教師のベストサポーター	【中等教科教育法 I、体育】 <ul style="list-style-type: none"> ・指導要領の理解を深める虫食い問題の作成 ・教師の現状を伝え、学習意欲を喚起するプレゼン作成 	【中等教科教育法 I、体育】 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの提出は個別にコメントや評価を記入して返却した。 ・積極的に机間巡視し、個別に声掛けを実施した。
2) 国際的なスポーツ健康教育学のプロフェッショナル	【中等教科教育法 I、体育】 <ul style="list-style-type: none"> ・ミズーリ州立大学グリーンウッド学校の話やアメリカの体育の指導内容の基準を紹介し、日本との比較検討を促した。 	【中等教科教育法 I、体育】 <ul style="list-style-type: none"> ・多様な立場を踏まえて、各自に合った指導案や授業実践を実施する機会を設け、省察して自己評価するようにした。
(3) 生涯スポーツにつながる事	【発育・発達論、1～4年のゼミ】 <ul style="list-style-type: none"> ・健康的な生活習慣を確立することの必要性を何度も伝えたり、計画及び自己評価させ改善する機会を設けた。 【スポーツ推進室】 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進室の業務ではパリオリンピックのパブリックビューイングの業務を対応し見るスポーツの振興も実施した。 【桔梗祭実行委員長】 <ul style="list-style-type: none"> ・桔梗祭にてスポーツ推進室の時間や企画を設けるようにした。 【女子サッカー部】 <ul style="list-style-type: none"> ・金曜日に積極的に学生と意見交換しながら、練習したり、切磋琢磨して有意義な時間を設けるように生徒指導も交えながら指導した。 	【発育・発達論、1～4年のゼミ】 <ul style="list-style-type: none"> ・第1～5回目のワークシートの提出では個別に生活習慣の計画・実施・評価についてコメントや評価を記入して返却した。 【スポーツ推進、桔梗祭実行委員長、女子サッカー部】 <ul style="list-style-type: none"> ・個別に積極的に声掛けを実施し、いつでも相談できる状況を形成するように努めた。
(4) 保健体育の授業や授業づくり	【中等教科教育 I、体育】 <ul style="list-style-type: none"> ・指導要領の理解、体育の歴史と潮流、授業映像と指導案作成のポイ 	

<p>が意義深く実践を通して楽しんでもらえる</p>	<p>ントの理解、短時間での模擬授業とスモールステップを踏み、失敗経験が少なくなるようなシラバス計画を立案し実施した。</p> <p>【授業観察演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・群馬大学附属小学校の体育を見学させ、授業の難しさや良さを理解させるように指導した。 	
----------------------------	---	--

4. 教育の成果

4.1. 学生による授業評価

学生による授業評価は全科目共通の評価シートの結果は、現時点で確認できないため、十分に記入することができない。しかし、発育・発達論は別に授業評価アンケートを実施した。そこでは具体的に、「後ろの席ではスライドが見にくい、プリントの配布場所を変えてほしい、スライドに文字が多い」との授業評価をもらった。他にも「少しは今後必要となる知識を学ぶことができた」との授業評価があった。

このように、私の理念に応じた成果については学生や教職員から十分に意見交換できていない。

4.2. 上司や教職員によるコメント

ある先生から「発育・発達論は有意義で楽しかったという意見が学生からあった」とコメントを頂戴した。

5. 教育における今後の目標

5.1. 短期・中期的目標

短期・中期的目標としては、学校現場と連携した授業ができるように修正することと言えよう。また、教育理念に応じた振り返りができるように学生や教職員から意見をもらえるように改善したい。その他にも、教員志望の減少がみられる中での教科教育法の在り方について、ただ教員に向けた力量形成にとどまらない汎用可能性も含めた授業づくりや人間づくりを今一度立ち戻り授業改善をしたいと考えている。また、生涯スポーツの実践だけでなく社会貢献につながる教養教育を実施できるように改善を図りたい。

5.2. 目標達成に向けた具体的な行動

1 つ目は卒業生と連携し学校現場で働く教師の支援ができる環境づくりといえる。

これにより、学校現場の保健体育教師のベストサポーターになるために何が必要か検討できよう。2 つ目は中等教科教育法や発育・発達論の知識がその他のスポーツ、レクリエーション、健康教育の専門職や社会人で求められる知識としても活用可能な汎用可能性を高める知識や技術を提供できるように、Sidentop の体育、フィットネス、スポーツの入門に関する本を翻訳し学生に提供できるように研究しておくことである。3 つ目は全科目共通の授業評価アンケートだけでなく、自分の理念に合った評価ができるように独自の評価シートを作成し振り返れるようにすることであろう。

【補足資料】

1. 担当科目のシラバス
2. 授業で使用したパワポスライド及びワークシートのサンプル